



発行元：NPO 法人東アジア政経アカデミー

発行元連絡先：〒168-0082 東京都杉並区久我山 4-38-14 電話：03-3332-8481 FAX：03-3332-8433

URL：http://www.eapea.sakura.ne.jp/ e-mail：shnagano@d8.dion.ne.jp

## 東アジアの平和と安定及び成熟した日韓関係を考える

東アジア政経アカデミー代表 永野慎一郎

### この号の内容

- 1 ■ 東アジアの平和と安定及び成熟した日韓関係を考える (永野慎一郎)
- 2 活動報告  
■ 講演及びセミナー参加
- 3 会員からの便り①  
■ 格差問題への5つの視点 (貫 隆夫)  
■ 古い名刺を整理していると (日向寺淳一)
- 4 会員からの便り②  
■ 「いたばし政策塾」の記念誌出版について (松浦 勉)
- 5 会員からの便り③  
■ 雲間から見えた韓国 (薄葉威士)
- 6 会員からの便り④  
■ 済扶島 (チェブド) で考えたこと (佐々木憲文)  
■ 木浦訪問回募集案内  
■ 編集後記

21世紀はアジア時代であると言われて久しい。アジア時代を担う重心的な役割は日本、韓国、中国の3国の協力如何にかかっている。3国の緊密な協力関係が構築できれば、北東アジアにおける平和と安定に貢献できるだけでなく、アジア諸国のリーダーとして世界経済をリードし、アジア時代を築いていく基盤造成ができる。すなわち、パックス・アメリカナに代わる新しい世界秩序を作っていくリーダーとしての役割が可能となる。

日中韓3国は世界人口の21.8%、世界GDPの20.4%、世界の貿易総額の18%を占めている。巨大な経済規模であり、世界最大の市場である。日本の先進技術と資本、中国の人的資源及び潜在力、韓国の活力溢れるチャレンジ精神、この3つを組み合わせ、相互に短所を補充できれば、更なる発展が可能である。

最近の日中韓3国関係は首脳会議も開催できないほど冷え込んでいる。日韓首脳交流も中止のままである。このような状況を関係諸国の大多数の国民は決して望んではいない。

背景に歴史認識問題や領土問題があるが、それぞれ相容れない国内世論を背後に持っている。そのような土壌を作り上げているマスコミやオピニオン・リーダーたちにも問題がある。目前の国益だけを追求するのではなく、広い視野で長期的な展望の上での国益の追求こそ重要である。自国の国益だけでなく、「共益」を追求しなければならない時代である。

指導者たちは知恵を絞って問題解決に努め、関係改善に取組むべきである。目前の政治状況だけを見て判断するのではなく、将来を見据えた長期的な展望の上での大局的な見地から判断し、行動する必要がある。交流を重ねることによって、理解を深め、信頼関係を構築し、積み重ねることが重要である。相手側の立場も認め合い、尊重し合い、譲り合うことが大事である。そのようにすれば、失われることよりも得られることが多い。

また、そういう環境を作り上げるための世論づくりも重要である。トップレベルの交流をはじめ、様々なレベルでの交流が必要である。

EUは欧州石炭鉄鋼共同体から始まった。フランスとドイツは国境地域の石炭・鉄鋼の経営権を巡って3度も大きな戦争をした。ジャン・モネが紛争回避のために国境地域の炭鉱の共同管理、共同経営を提案し、それを仏・独両国が受け入れ、伊、オランダ、ベルギー、ルクセンブルクが賛同して1952年に欧州石炭鉄鋼共同体が設立された。それがECへと発展し、さらにEUへと拡大した。

EU統合の経験は北東アジア地域諸国が抱えている懸案の解決に参考になる。特に、領土問題になると相反する国民世論が背後にある。どちら側も譲れない政治問題である。領有権は保留して共同管理のようなものを考えることも解決策ではないかと考える。

朝鮮半島の平和と安定および南北関係の改善には米国同様、中国と日本の役割が極めて重要である。当面の課題としては、北朝鮮の改革・開放への誘導であるが、それが結果的に北朝鮮の経済的安定と民主化に繋がり、同時に政治的安定すなわち、体制の安定となるということを北の指導者たちが納得するようにすることである。具体的には中国の政治的な影響力行使と日本の経済的支援体制になるが、そのためには拉致問題や核・ミサイル問題などを同時進行で解決していくという政治的な判断が必要となる。

## 活動報告

### 講演及び国際セミナー参加

#### ◇“ワールドサミット 2014”に参加

永野慎一郎代表は、2014年8月9-12日、ソウルのミレニウム・ヒルトン・ホテルで開催された“WORLD SUMMIT 2014”に参加し、「東アジアの平和と日韓トンネル」と題して講演した。



「ワールドサミット 2014」で講演する永野代表

#### ◇日韓トンネル推進兵庫県民大会で講演

永野慎一郎代表は、2014年9月23日、兵庫県民中央労働センター大ホールで開催された日韓トンネル推進兵庫県民大会において「これからのアジアと日韓トンネル構想」と題して講演した。

#### ◇平和トーク・コンサート・釜山セミナーで講演

永野慎一郎代表は、2014年9月29日、釜山市庁国際会議室で開催された大韓民国平和トーク・コンサート・釜山セミナーにおいて「東北アジアの平和と日韓海底トンネルの構想」と題して講演した。



韓半島統一と東北アジア平和実現国際シンポジウムで発言する永野代表

#### ◇日韓トンネル推進広島県民大会で講演

永野慎一郎代表は、2014年10月12日、広島市西区民文化センターホールで開催された日韓トンネル推進広島県民会議設立大会において「未来志向の日韓関係と日韓トンネル」と題して講演した。

#### ◇韓半島未来財団国際会議参加

永野慎一郎代表は、2014年10月15日、ソウル・プレスセンター国際会議室で開催された韓半島未来財団創立5周年記念国際会議『東北アジア共同体と韓半島の未来』に討論者として参加した。

#### ◇巨済市民討論会で講演

永野慎一郎代表は、2014年12月9日、韓国慶尚南道巨済市庁大会議室で開催された市民討論会『韓日海底トンネルが東北アジア平和に及ぼす影響』に講師として招待された。



韓半島統一と東北アジア平和実現国際シンポジウムの発表者たち

#### ◇韓半島統一と東北アジア平和実現国際シンポジウムに参加

永野慎一郎代表は、2015年3月2日、韓国国会憲政記念館大会議室で開催された国会議員研究団体「統一未来フォーラム・(社)南北統一運動国民連合・UPF共同主催の『2015 韓半島統一と東北アジア平和実現国際シンポジウム』に参加した。



#### 【写真説明】

#### 韓半島未来財団国際会議参加者たち

前列左より柳明桓元外相・駐日大使、鄭鍾旭元中国大使、具天書韓半島未来財団理事長、玄仁澤前統一部長官、金南植統一部次官、平山郁夫前新潟県知事、金進中央日報論説委員、朱鋒北京大学教授、永野慎一郎東アジア政経アカデミー代表、崔之元清華大学教授、鄭永泰統一研究院前任研究委員

## 会員からの便り①

### 格差問題への5つの視点―

#### 経済、経営、人口、技術、政治

武蔵大学名誉教授 貫 隆夫

トマ・ピケティ『21世紀の資本』が世界各国でベストセラーとなっているように、経済的格差の問題が注目を集めています。この背景には、経済成長によって全体のパイが大きくなる間は許容されてきた格差が成長鈍化とともに、最大の関心事となってきた政治状況があります。日本や韓国、中国など東アジア諸国にとっても格差問題は深刻になっています。ピケティは資本収益率がGDP成長率を継続的に上回ることを統計的に実証し、資本主義のメカニズムが格差を拡大させる必然性を示しました。彼の理論は、格差拡大への対策としての資産課税の強化という政策提言とセットになって、世界的な共感と支持を得ているようです。しかし、格差問題の解明は、ピケティのようなマクロ経済学的な取り組み以外にも、さまざまなアプローチを必要としています。①（岩井克人氏が指摘するように）英米における格差拡大の最大要因は、利子や配当など資産所得ではなく、一般従業員の数百倍にも達する高額な経営者報酬であるというコーポレート・ガバナンス（企業統治）のあり方であり、企業統治とは企業という組織内部における利益や権限の配分問題であり、いわば経営学的な問題であります。また、②（大竹文雄氏が指摘するように）日本における格差拡大の最大要因は人口構成の高齢化、すなわち同年齢層内の所得格差が年齢に比例して拡大する所得構造のもとで高齢化が進んだから、という理由で相当部分が説明可能です。このほか、③『機械との競争』の著者たち（E.ブリニョルフソン、A.マカフィー）が指摘するように、IT化やロボット化など技術の発達が進化を促進し、単純労働だけでなく、中間層が担ってきた熟練労働・ホワイトカラー労働までを機器・システムが代替する結果、中間層が没落しつつあるという技術論的な説明も有力な視点です。さらに、④日本を含む先進各国で1980年代から行われた累進所得課税の緩和も無視できない重要な理由です。レーガノミクスやサッチャリズムに見られた最高税率の大幅な緩和（日本の場合75%→40%）は資本主義のメカニズムの問題ではなく、所得再配分のあり方という政治的な問題です。

以上の事から、ピケティの理論に対しては、少なくとも資本収益率>経済成長率という彼の理論の根幹となっている不等式をさらに掘り下げ、そのような不等式が資本主義の経済的メカニズムにどこまで起因しているのか、①～④にあげた要因からどこまで独立に成立するメカニズムなのか分析される必要があります。格差の所在を示す方法としてはジニ係数、相対的貧困率など様々な表示方法がありますが、ピケティは上位1%、5%、10%などの富裕層が全体の所得や資産の何%を占めているかという直感的にわかりやすい方法で格差の拡大傾向を示したことも大きな貢献だと思われます（ウォール街で起こった“We are 99%”のプラカードはその影響です）。

（当アカデミー理事）

### 古い名刺を整理していると

健康文化会医療労働組合書記次長 日向寺 淳一

古い名刺を整理していると、色あせた古い名刺が目にとまりました。それは旧ソビエト連邦国家テレビラジオ委員会（ゴステララジオ、国営放送局）のヴラジーミル・ツヴェートフ東京特派員と書かれていました。彼から名刺を受取ったのは1979年頃で、小豆沢病院のある医師への面会を希望したと記憶しています。どのような要件だったかについては知る余地もありませんが、あらためて調べてみると日口の歴史に残る人物だったことを知りました。

若い人には、余りなじみがないかもしれませんが、年配の方は1960年代から70年代前半に活躍した「ザ・ピーナッツ」のヒット曲の一つで、1963年にヒットした『恋のパカンス』（作詞岩谷時子、作曲・編曲宮川泰）は、よくご存じだと思います。日ロ交流では、来日するロシア人たちがこの曲をカラオケでよく歌うので、不思議に思っていました。それで調べてみたところ、同曲がロシアに紹介されるきっかけになったのが、ヴラジーミル・ツヴェートフさんがこの曲を気に入り、ソビエト連邦本国に持ち込んで積極的に展開したことでした。そして1965年、ソ連の人気歌手コーナ・パンテレーエワが「カニークイ・リュブヴィー（Каникулы любви「恋のパカンス」の直訳）」のタイトルで大ヒットさせました。さらに1966年、中央アジアのウズベキスタンでも、エリエール・イシムハメドフ監督「Нежность（優しさ）」という映画の主題曲に使用され、映画が大ブレイクした「主な要因」になったとまで言われているのでした。歌詞は、その後リバイバルされ、ロシア人自身も日本の歌とは知らず、ロシアで作られたと信じられています。現在のロシアでも世代を超えた有名曲となっているとのことでした。彼は、すでに故人となっていると聞きましたが、この名刺は大切に保管することにしました。

（当アカデミー監事）

VLADIMIR TSVETOV  
SOVIET RADIO & TV  
CHIEF OF TOKYO BUREAU

44 MAMIANA MACHI, AZABU  
MINATO-KU, TOKYO  
MAMIANA MANSION NO. 510

TEL: 592-4 9 7 4

## 会員からの便り②

### 「いたばし政策塾」の記念誌出版について

前板橋区福祉部長 松浦 勉

2008年に板橋区職員、大東文化大教員・学生、区民有志らで発足したユニークな研究グループ「いたばし政策塾」が、このほど7年間の活動記録と研究成果をまとめた記念誌を出版した。

約220ページのこの記念誌には、当アカデミー永野慎一郎理事長による論文「韓国の地方自治の現状と課題」を含め13名のゲスト・講師からのメッセージ原稿、19名の塾会員・運営委員の論考・所感など計32編が掲載されている。また、巻末の資料編には、7年間で6回の地方都市視察、55回の定例研究会・公開講座などの活動記録が写真入りでまとめられている。

いたばし政策塾で永野理事長が講演されたのは、2011年1月の「韓国の政治文化と地方自治～最近の東アジア情勢を背景に」をテーマにした公開講座のほか、2012年6月の定例会における、板橋区と木浦市の相互訪問やセミナーの開催などを中心とした、日韓交流の現状と課題についての報告の2回である。

同政策塾は、私と中村昭雄大東文化大学法学部教授が共同代表を務めていた縁で、永野理事長には上記講演以外にもたびたびご出席いただき、貴重なご意見を賜っている。2012年3月の木浦福祉財団と当アカデミー主催の日韓国際福祉セミナーにも私と中村教授が報告者として登壇の機会を得、木浦市視察の経験ができたのも政策塾での繋がりがあったからと感謝している。

さらに、2013年4月のアカデミー総会では、石塚前板橋区長の講演「私の体験と国際交流」が政策塾の協賛で開かれ、板橋区の国際交流がどう進められたかが、自らの体験を織り交ぜつつ語られたところである。なお、石塚氏は、今回の記念誌で「いたばし政策塾の記念誌発刊にあたって～区政の回顧と板橋の文化～」を寄せられている。

3月5日には、区立グリーンホールにおいて、記念誌出版記念会が開かれ、石塚氏、永野理事長をはじめ記念誌の執筆者や来賓、政策塾会員、大東文化大学中村ゼミの学生など30名が出席し、和やかに記念誌の完成を祝っていただいた（写真参照）。

なお、いたばし政策塾は、記念誌の発刊をもって7年間の活動に区切りをつけたわけだが、培われたネットワークや残された成果は、今後の各会員による自主的な研究活動等に活かしていけるものと信じているところである。私自身も、福祉分野での関わりや公文書館での職務を通し、区政情報の発信やまちづくりへの参画などに政策塾での経験を活かしていければと考えている。永野理事長をはじめアカデミー会員各位のご厚情に改めて感謝を申し上げ筆を擱きたい。

（当アカデミー理事）



## 会員からの便り③

### 雲間から見た韓国

公益社団法人中央日韓協会理事 薄葉 威士

昨年5月、初めてモンゴルに行った。表向きは名目はウランバートルでの植林事業への参加だが、モンゴルの大草原を疾駆してみたいというのが本心だった。

成田からウランバートルまで約4時間半の飛行。多分韓国の上空を通過して中国の遼東半島のどこかを横切っていくだろうという見当はついたが、成田を出て2時間程度、下界は厚い雲に覆われ、飛行機の窓から地上が何も見えず不満がたまってきたとき、ちょっとした雲の切れ目から大きな空港が真下に見えた。一瞬だが「INCHEON」という文字が滑走路の横に。カメラを構える間もなく、飛行機はまた雲海の上。1年近く前のことだが、その当時の、また現在の日本と韓国の関係を象徴しているような一瞬の出来事だった。

日韓関係は厚い雲の中で、お互いに手探りの状態。相手がどこにいるのか、本心は那邊にあるのか、お互いによくつかめず暗中模索の状態だ。昨年10月末にソウルで行なった、中央日韓協会とソウル清溪川文化館と共催の「ソウル清溪川と東京日本橋川等の再生」というテーマのシンポジウムも、表向きは和気あいあい成功裏に終わったが、何か奥歯に物が挟まったような、どこか消化不良のような感がなきにしもあらずであった。

話をモンゴルに戻すと、1泊2日で、ウランバートルから直線距離で約400キロ離れた、かつてモンゴル(蒙古)帝国の首都が置かれたハラホリン(カラコルム)までランドクルーザーで疾駆した。ところが、ウランバートルを少し離れると舗装道路は穴だらけ。穴ぼこの継ぎ目に道路があるような感じ。また、草原といってもひどい起伏の連続で、シートベルトをきつく締めても車の天井に頭がぶつかるのではないかと思うほどの悪路、凸凹草原を往復で約10時間。

しかし、360度遮るものがない草原。遠くに岩山は見えることがあるものの、とにかく広い広い広～い。ハラホリンのエルデニ・ゾー(チベット仏教寺院)では、見学中の地元の中학생とも話ができたが、僧房を一つ一つ巡って、中の仏教絵画を見るにつけ、おごそかというのではなく、何か神秘的な雰囲気さえ感じた。

ただこのモンゴル(蒙古)帝国は、1235年にハラホリンに都を定めてから約40年後、前後2回にわたり対馬や九州博多に大挙して攻め込んで、当時の鎌倉幕府と干戈を交えたこともあった。そのときには、決して望んで来たわけではないだろうが、当時の高麗王朝の軍勢も、心ならずもモンゴル(蒙古)軍の一員として対馬、博多に殺到したということである。

ただ、全て7百数十年以上も昔のこと。100年前の日韓(朝)間との比較は意味がないだろうが、あのぼっかり空いた雲の切れ目から仁川空港が見えたように、雲の切れ目がさっと大きくなって、日韓間の視界が大きく開けることを心底願うものである。

(当アカデミー理事)



エルデニ・ゾー見学中の中학생とともに



ゲルの前の3姉妹

## 会員からの便り④

### 済扶島（チェブド）で考えた

SPM 研究所代表 佐々木憲文

1 月下旬、韓国を訪問しました。30 年来の友人であり、兄のように親しくしてくれる梁俊永さん（経営情報研究院・院長）の案内で、済扶島に行ってきました。車で約 1 時間半、ソウルの南西、仁川の近くにある島です。「モーセの奇跡」として有名な観光地で、一日に 2 回干潮時に、本土から島へ渡る海の道が開かれ、車でわたることができます（干満差が 1～3m 程とのこと）。

昔、干潮時に現われる干潟を、子供は背負い、老人を支えながら渡ったとして、「済弱扶傾」という言葉が語り継がれ、「済」と「扶」の字をとって「済扶島」と名付けられたとのこと。いい名前です。失われつつある「情」を蘇らせてくれました。

弓なりになった長い砂浜があり、夏には多くの海水浴客が押し寄せ、西の海に沈む大きく美しい夕陽を眺めに訪れる人も多いようです。海岸沿いには多くの飲食店が並んでいます。しかし真冬の平日、しかも曇天。ペンションも客は私たちだけ。「男だけ二人で？」と訝しげに聞き返す主人。

海岸沿いを歩いても、人影はまばら。冷たい海風に凍えそうになって食堂に飛び込み、中からの暖を摂ることにしました。いろいろな貝を炭火で焼いていただくコースです。牡蠣、蛤、浅利、烏貝等々種類も豊富で、焼けるにつれて香ばしい匂いが立ち上ります。夜の帷が降りると、遠くで漁をするほのかな明かりだけが揺らめいて見えました。私たちだけが客で、店の主人もいっしょになっての宴となりました。

翌朝起きたら潮は遠くまで引き、水の中に沈んでいた道が現われていました（写真）。本土と済扶島を結ぶ道ではありませんが、島のさらに沖へと続く干潟です。突然、東山魁夷画伯の「道」が思い浮かびました。むろん景色は違いますが、遠くまで果てしなく続いていることを想像させる道でした。

隠れていた道が私たちを誘います。寒い風の中、語らいも無く黙々と歩きました。最悪の状態に陥っている日韓関係。橋を外し、渡ってくるように言葉で呼びかけるだけの政治家やマスコミ。声高に批判したり、弱みだけをあげつらったり、またそれらを隠蔽したりすることなく、「済弱扶傾」の心で互いを見つめる努力をすれば、きっと隠れていた道が現われるはずで。見えなかった道も浮上？し、往来できるようになるのではないのでしょうか。混迷を深め闇に迷い込みそうな今日、しかし、私たちができること、しなければならぬことはたくさんありそうです。楽しみを共有できる近隣関係を築くために、今回は美しい夕陽を眺めようと約束しつつ、済扶島を後にしました。

（当アカデミー監事）



拓かれた道（チェブ島）

### 木浦訪問団募集案内

韓国陸地棉試作 111 周年記念国際シンポジウムを試作地木浦で開催する企画をしています。それに併せて行事参加の訪問団を募集します。

ご希望の方は事務局にお問い合わせください。

日程：2015 年 9 月 20 日～23 日（3 泊 4 日）

【訪問予定】

1. 国際シンポジウム参加
2. 木浦市長訪問（市長主催晩餐会予定）
3. 全羅南道知事訪問（道知事主催晩餐会予定）
4. 陸地棉発祥地訪問
5. 旧日本領事館・木浦近代歴史館・旧東本願寺・木浦共生園など日本関連遺跡や金大中ノーベル平和賞記念館・王仁博士遺跡など観光

### ■編集後記

2015 年は開始早々、イスラム国における日本人殺害事件が大きな話題となり、安倍政権の失政が明らかになると同時に、異文化共生がいかに世界的に見て難しいかを日本全体で痛感することになりました。そのような中で、今回のニュースレターには、EAPEA に深い関わりがある方々がそれぞれ違った視点から異文化共生にあたって何が必要か、それぞれ示唆的な御玉稿を書いて下さいました。あらためて異文化の共生というものは、人類の永遠の課題であると思わずにはいられません。ご多用中にもかかわらず、御玉稿をお寄せ下さった皆様には厚くお礼申し上げます。そして米国・キューバ関係の雪解けのように、今年こそは日韓・日中関係にも雪解けが訪れますよう、また世界全体が一体になることを願ってやみません。

（大杉由香）